

# 鹿児島県大島郡宇検村平田方言

林 由華

項目		基本情報
話者 情報	生年	1950年
	生育地	鹿児島県大島郡宇検村平田
	性別	女性
	補足情報	居住歴 0歳～15歳：平田、～19歳：名瀬、～29歳：大阪、～31歳：名瀬、～40歳：古仁屋、その後大阪
解説	概要	奄美大島宇検村にある平田地区で、奄美語（北琉球奄美方言）に属する。宇検村に含まれるが、瀬戸内町と接しており、交流も近隣の瀬戸内町の人の方が多く、話者の感覚では、ことばは瀬戸内町の諸方言（奄美大島・加計呂麻島南部）に近いように感じるとのこと。
	表記	母音は /i, e, a, o, u, i, ë/ がある。/i/ の場合は、/ri/ 「ルイ」のように、ウ段のカナと「イ」を組み合わせる書き、/ë/ の場合は、/bë/ 「ベエ」のように、エ段のカナと「エ」を組み合わせる表記している。ただし、/ti //dë/については、それぞれ「ティ」「ディ」で表す（これらと弁別的な/ti//di/は現時点で見つかっていない）。また「クエ」については /kwë/ を表す。 子音側の特殊な補助記号として、「 <sup>l</sup> 」「 <sup>h</sup> 」「h」を使用している。それぞれ、「 <sup>l</sup> 」はいわゆる喉頭化子音、喉頭の緊張を伴う音となる仮名の右肩に付している。ただし、「 <sup>l</sup> ヤ」「 <sup>l</sup> ユ」「 <sup>l</sup> ヨ」に相当するものについては、「イヤ」「イユ」「イヨ」で表記する。「 <sup>h</sup> 」は、母音がないもしくは義務的に無声化し子音が音節末子音的になる仮名の右肩に付している（例：「ア <sup>h</sup> ム」[am]、「ハエ <sup>h</sup> ク」[haek <sup>h</sup> ~haeku]）。（これらの無声化した母音は、すべての環境で無声であるわけではなく、環境によっては明確に有声で発音されることもある。）「h」については、現在「ク」の左のみに出現しうる補助記号で、帯気化した子音、つまり「ク <sup>h</sup> 」で [k <sup>h</sup> u] を表している。この有気子音が音韻的なものなのか音声的なものなのかについて現状で十分に検討できていないが、話者の書き分けが必要であるという判断に従って表記している。 また、「イ <sup>h</sup> 」については、/ji/[ji] を表している。 その他特別な記号として、長音記号について、「ー」と「-」を区別している。後者のハイフンは、話者により、長くはあるが、1モーラ分（通常の長音記号分）ほどではないとされたものについて用いている。これについても、音韻的な長さの違いがあるかどうかは未検討。
	文法概説	ここでは助詞と動詞活用について特に注意が必要となる項目について簡単に記す。 まず、異形態をもつ助詞として、「ン」受身の動作主等(二)、「カラ」起点(カラ)、「ヤ」主題(ハ)の助詞がある。「ン」については、-n 終わりの語についた場合は、nun になる（例 トーチャヌン「お父さんに」（項目18））。「カラ」については、i や u などの迫母音や音節末子音などに後接してカラ（例 アジガナシ＝カラ「按司様から」、フ <sup>h</sup> シ＝カラ「星から」、トーチャン＝カラ「お父さんから」）、それ以外の母音に後接してラ（例 アマ＝ラ「向こうから」）になるとみられる。主題「ヤ」については、通常の母音終わりの語についた場合は「ヤ」、子音終わり（「ン」「ム」）、準子音終わり（義務的に母音が無声化するもの、『表記』の項目も参照）のものについては、最後の子音を頭子音として重複させ、CCaもしくはCCja となる（例 ホンナ「本(ホン)は」（項目7）、ワラベエアリンヤ「子供の頃(ワラベエアリン)は」（項目36）、アツラ「あれ(アルイ)は」（項目50））。拗音化するかどうかは、歴史的に i 終わりかどうか等が関わっているようだが、揺れのあるものもあり、現時点で詳しくは分かっていない。 動詞の活用タイプについて、多くの日琉諸語諸方言のように、多段型と一段型を持つ。他の北琉球諸語諸方言と同様、基本形が歴史的にいわゆる融合形（連用語幹+un「居る」）に由来し、かつ非融合語幹やテ形由来の語幹もあり、特に多段型には各活用接辞（語尾）に接続する語幹の形に複数のパターンがある。また、いわゆる終止形といわれてきたものに ri 語尾形（ルイ語尾、項目2）と m 語尾形（ム語尾、項目4）のものがある。係り結びがあり、係り助詞のドゥがある場合は連体形（ン語尾）で結ぶ（項目14、24等）。この係り助詞と連体形結びの関係は、形容詞述語についても同様である（項目48）。また、疑問詞疑問文や肯定疑問文の場合はこれらの形でなくそれぞれ異なる動詞形を用いる（前者は-ン語尾（連体形よりンの直前の母音が長い）、項目42。後者はムイ語尾、項目50等）。

〔基本例文50〕 鹿児島県大島郡宇検村平田方言訳

	方言訳1 (もっともよく使う表現)	方言訳2 (使うこともある表現)	備考・コメント
1	ナマラ ドウシン テガ <sup>ハ</sup> ムバ カキュ <sup>ハ</sup> ム		
2	フデシ テガ <sup>ハ</sup> ムバ カキュン チュ <sup>ハ</sup> ム フルイ		フルイはr語尾形。M語尾形はフ <sup>ハ</sup> ムとなるが、この文例で使うと、実際の発話としては不自然になる。
3	ヤー <sup>ハ</sup> チ ムドティ スグン テガ <sup>ハ</sup> ムバ カチャ		
4	カチャン テガ <sup>ハ</sup> ムバ ナンカイ アロカ ユ <sup>ハ</sup> ム ケーシュ <sup>ハ</sup> ム		
5	ユルヤ ジュージナルイバヤ ハエ <sup>ハ</sup> ク ヌイブイルイ		
6	アブネサンカラ シャドーヤ アッキナ		
7	ク <sup>ハ</sup> ン ホンナ タローン クルイロ		
8	ヒンマラヤ アムィヌ フルッロヨ-		
9	ハルイ ナルイバヤ ハナヌ サキュ <sup>ハ</sup> ム		
10	ハナコガ マドバ エエータットウ ムシヌ ヘエーチツチャ		
11	アサヤ アンマリ テレビヤ ミラ <sup>ハ</sup> ム		
12	ハナコヤ ガッシュン バングミンキャヤ ミリ <sup>ハ</sup> ム スラ <sup>ハ</sup> ム		「見もしない」に対応。「見はしない」に形式的に対応するものはない。
13	ハナコヤ キニユ テレビヤ ミランタ		
14	ハナコヤ テレビヤ ミランヌシ ホン ベエ-ルイドウ ユドウン		・「ベエ-ルイ」でも「ベエルイ」でもよい。
15	テレビ ミランバヤ ク <sup>ハ</sup> ン シグトウヤ キュ-ナンティ オワタッロヨ		・「今日」は単独形では「キュ」。
16	ネイティバ イジャシヤン 'ク <sup>ハ</sup> ン ク <sup>ハ</sup> ス ルイバ ヌマシヤ		
17	カーチャンガ イモートン ティコロベエ シムイタ		・話者が子供の頃の時点で「アンマ」「オッカ」(母親)、「ウトウトウフナリ」(妹)は使っていなかった。 ・目的(二)にあたるものはこの文では導出できなかった。例えば「手伝い(し)に行こう」であれば、「カチエシガ イキョ」となる。
18	ウトウトウトウ トウラティ ワンベエリ トーチヤヌン イヤーツタ		
19	ヤーナン フラン ウ <sup>ハ</sup> チ ヌッドン ヘエーラツタ		・「留守中に」は、「家にいない間」に対応する形になっている。
20	ク <sup>ハ</sup> ン 'ク <sup>ハ</sup> ヤ ナマ インサンバ <sup>ハ</sup> ム ム <sup>ハ</sup> ティカシヤン カンジバ カキッキルッ ディヤ		・文末表現(終助詞)の「ディヤ」をとると「カキッキル <sup>ハ</sup> ム」になるが、書き言葉的で、実際の発話としては不自然。
21	キュ-ヤ マドヌ アンカラ イ シティチ テガ <sup>ハ</sup> ムヌ カカル <sup>ハ</sup> ム		・「イ シティチユティ」(落ち着いて)ともいえる。

22	クhン 'クウヤ ナマ インサンカラ ヒラ ガナ ベェルイドウ カキッキルン		・話者は「ので～～しか～ない」の表現は思いつかないとのこと。ここの逐語的な訳は「この子はまだ小さいから、平仮名だけ書ける。」となる。「(小さいから) 漢字は書けない」であれば、「カンジャ カキッキラン」となる。 ・「ベェルイ」「ベェルイどちらでもよい。
23	ツクエヌ ネンカラ ジーヌ イ' ッチャガ ディ カカラ^ム		
24	タローヤ ナマ トウナルイヌ ヘヤ ナン ティ ホンバドゥ ヌドゥン		・「ドゥ」があるため、係り結び形(連体形)の「ユドゥン」が出ている。「ドゥ」がない場合は、「ユドゥヘリ」となり、「ユドゥヘム」は不自然。 ・「ユドゥン」のほか、「ユミユン」でもよい。
25	タローヤ ハナコン カタン ホンバ ニヤー オワリガディ ヌダ^ムチ		・最後に伝聞の「チ」を入れないと自然な会話にならない。
26	ニヤーセ ヨーット シュン トウロ ナンディ ネイブルイチャサヤ-		・「チャサ」でも「チサ」でもよい。
27	ユウヤケシ ソラヌ アーサヤ		
28	インサルイウッチャ チュールイシ ベンジョ ヘチ イキユムンノ ガーシ ウトウツシャタ		・話者によれば「チュールイ」でも「チューヘリ」でもいいかもしれないとのこと。
29	ウドンチバ ソバナリイバヤ ヤツサルッロヨ		・「ヤツサルッロ」でもよい。
30	フルホンヤン ホンバ ターサガディ カイトウ ティ ムラタ		
31	テンキヌ ワルサティ タルイ^ム コ^ム		
32	ニヤーセ ヤツサルイバヤ コーワルタムン		
33	チュールイシ アッピイガ イジャンティ^ム ウモシレサッカ ネ^ム		
34	テンキヌ イ' ッチャク ナリイバヤ イジ バラルムン		
35	タローヤ ナマ チュウガクセイ ジャ^ムナ		・「ジャ^ムナ」は終助詞的なもので、コピュラではない。
36	ワラベェアリンニヤ センエンアロカ タイキ ンドゥ アタ^ム ナヤ		・「ワラベェアリンニヤ」は「ワラベェヌチキンニヤ」でもよい。
37	クhウツラ ヌッドヌ アシアト ダロ ヨ		
38	ウツラ ワーカサ ディヤ、アルイドゥ センセ イムン ジャガ		・「ジャガ」がないととても失礼な印象になる。「ドー」や「ジャムナ」でもよい。 ・「センセイムン」は「センセイヌカサ」と言ってもよい。
39	モシカシ アチャ イ' -テンキナルイバヤ ' クワンキヤバ'ティルイティ ダー^チカ イ キョ		

40	クhn カサトゥ クッタ ワームナ アラ^ム		
41	A: アチャ^ム クマ^チ キュームイ B: ウン、コーツチ ウモトウツドー		
42	A: ヌーチガ コーン? キュー^ムチ イチュ タスイガナ B: カンニンヤ-。ニヤールイ グアイヌ ア タラティナ ドー		
43	A: アマナン フームナ タローイ? ? B: アラ^ム、タローヤ アランヌシ、ジ ローヤ アラムイ。		・録音では、「B: アラ^ム、タローヤ アランヌシ、ジロー ドー」となっている。
44	A: ディルイガ ウラ カサ ガー B: クhルイガ ワー カサ ドー		
45	A: クhn ホン ユミユムン ナルイバヤ カラシュツディヤー B: ウン ホン ナルイバヤ ニヤー ユ ダッドー		
46	A: トウナンヌ ヤー^チ ヌツドヌ ヘエーチャ^ム チ B: エー、ガーシイ`。トウナルイカ^チ ヘエーチャムン ナルイバヤ ワーキャ^ム キー ティクイランバ イキャ^ムヤ		・「トウナルイ」は、ヌ (主格/属格) 等がうしろにつく場合は「トウナン」 「トウナルイ」どちらにもなる。 ・「トウナルイカ^チ」は、「隣にま で」というニュアンス。単に「隣に」で あれば、「トウナルイ^チ」でよい
47	A: アムイヌ フルイチュゴロ シャンカラ マドゥ シムイティ ウツチュクイヨー B: ニヤー シムイティ アッドー		
48	A: ソバ カ^ムガ イキヨーディ B: ソバ ユクマ ウドンドウ イ` ッチャ ン		・「イ` ッチャン」は連体形。「ドウ」 があるため、この形になっている。いわ ゆる終止形は「イ` ッチャ」
49	A: イロハシヨテンチ イウン ホンヤヤ ダーナンガ アルイカ シラムイ? B: シツチュツドー。アマナン カンバンヌ メエールツロガ		
50	A: サヌキウドンチ カダントウヌ アー ムイ? B: ウン、アツラ ガーシ マーサツディヤ ヤー		